

平成27年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果(北信地域)

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
1	地域協働の推進	ハード	中野市	手づくり農村支援事業	農業農村整備の推進を図るとともに、農村の自立を促す契機とすることを目的に、地域住民が発意し、施設管理者、農家、地域住民が協働して行う土地改良施設の補修・整備の直接施工や維持管理活動を支援した。 ②原材料費(4,760千円)	4,760,174	1,666,000	直接施工により少ない経費で農業施設が整備され、農作業の労力の軽減が図られるとともに、住民参加の地域活動として自立した農村づくりを促す効果をもたらしている。
2	地域協働の推進	ハード	飯山市	協働のむらづくり事業	住民(区)と市が協働して、農林業用施設(農道・林道・水路)を整備することにより、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高めた。また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図った。 ②原材料費(7,852千円)	7,852,159	2,982,000	農道等の整備により、施設の老朽化等に伴う耕作放棄を未然に防止することが出来ている。また、地域住民が互いに協力し、創意工夫することで、より地域に即した整備を進められるようになった。
3	地域協働の推進	ハード	山ノ内町	地域協働で農業に活力を与えるための施設整備(農道舗装)	地域住民が自立的に実施する農道舗装に原材料支給等で支援することにより通行の安全確保、果実運搬時の荷痛み減少を図り、高齢化や後継者不足に悩む農業への生産意欲の向上と安定した農業経営につなげた。また、協働作業を通じて住民同士の交流、農道管理意識の向上を図った。 ②原材料費(2,823千円)、重機借上料(790千円)	3,613,333	1,406,000	地域の自主性に任せ農道舗装を行ったことにより実情に即した整備が図られ、農業の生産意欲の向上に繋がるとともに、地域の連帯感が増し自立意識の向上が図られた。
4	教育、文化の振興	ソフト	木島平村	地域の偉人「和算家・野口湖龍」に学ぶ～村制60周年・没後200年記念～	村制60周年と地域の和算家・野口湖龍没後200年の節目の年に当たることから、村の偉人に関する記念講演会と村内の舞台演劇グループによる朗読劇を開催し、地域の偉人を再認識するとともに、住民の地域に対する愛着と誇りの醸成を図った。 ①講師謝金(82千円)、チラシ等印刷代(185千円)、舞台公演関係一式(644千円)	912,234	670,000	地域に残る文化財をもちいて、地域の偉人について児童から高齢者まで幅広く学習する機会を提供した。また、朗読劇については、演劇グループのほか住民も舞台制作に関わることにより地域文化力の向上に寄与した。
5	地域協働の推進	ハード	野沢温泉村	手づくり農道舗装等事業	農業従事者が高齢化する中、農山村景観の保全と農用地の荒廃地化防止を図るため、農作業の労力を軽減と生産意欲の向上、農用地の流動化を目指し農家・非農家が協力して自らが行う農道舗装等に対し、村が原材料を支給した。 ②原材料費(5,103千円)	5,103,292	2,887,000	農林道の整備により作業時の安全性と利便性が確保できた。また、地域住民が自ら整備をすることで自立意識の醸成が図られた。
6	農業の振興と農山村づくり	ハード	栄村	農地等国土保全事業	農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び用排水路等について、村が原材料等を支給した。 ②原材料支給(3,753千円)	3,753,194	1,315,000	農道及び水路等を整備することにより山間地の水田の持つ多面的機能が維持、発揮され、生産性も向上している。また、地区ごとに要望をまとめた5か年の改修計画を策定しており、計画的に実施しているため住民の満足度は高い。
7	商業の振興	ソフト	中野市商店会連合会(中野市)	ドキドキ ハロウィン	普段商店街を利用しない若い世代に商店街を知ってもらうためのイベント(ハロウィン仮装パレード)を行い、商店街や個店に親しみを持つきっかけづくりとした。 ①会場費(807千円)、イベント関係経費(313千円)、広告宣伝費(185千円)	1,305,824	900,000	若い世代に人気のイベントを行うことにより普段商店街を利用しない世代を誘客できた。イベント運営において高校生の参加もあり、若者が商店街活性化について考える機会にもなったため、継続的な来店につなげるための取組みに期待する。

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
8	商業の振興	ソフト	中野陣屋光と音のシンフォニー実行委員会(中野市)	中野陣屋・県庁記念館周辺イルミネーション装飾事業	中野陣屋・県庁記念館を中心に地元高校生や建築士会と協力してイルミネーションの装飾を行い、併せて地元の音楽家によるコンサートの実施や商店会と共催でワンコインセールなど実施することで、中心市街地の活性化を図った。 ①イルミネーション購入費(1,997千円)、ミニコンサート出演料(106千円)、広告宣伝費(212千円)	2,367,216	1,491,000	冬季の中心市街地への誘客対策としてイルミネーション装飾を行うことにより、地元事業者や高校生のまちづくりへの参画意識を高めることができた。また、併せて開催したミニコンサートにより地元音楽家の発掘と音楽都市としての魅力発信につながった。
9	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	中野市農業総合振興対策協議会(中野市)	新市合併10周年記念農産物PR事業	旧豊田村と合併して10年を節目として今まで以上に中野市の農産物(きのこ、果物等)の販売促進に力を入れて取組む契機とするため、「秋の味覚市フェア」を開催し、中野市の食の魅力を市内外にPRした。 ①会場使用料(648千円)、情報発信費(648千円)	1,296,000	972,000	「秋の味覚市フェア」を開催、テレビ放映を行い中野市農産物をPR、中野市の知名度向上に努めた。
10	農業の振興と農山村づくり	ソフト・ハード	Na-ハーベスト有限責任事業組合(中野市)	中野の農産物・情報発信拠点「Na-ハーベスト」運営事業	24年度に神奈川県藤沢市に開設した中野市のアンテナショップ「Na-ハーベスト」で販売する農産物の鮮度を保持するため冷蔵ショーケース等を整備し、商品のロゴを作成、パッケージを統一しブランド力を高める取組みをしたほか、中野市・藤沢市住民が相互に交流する体験イベントや講座を開催し、食を中心とした都市と農村の交流を図った。また、運営組織を強化するため有限責任事業組合を設立した。 ①デザイン料等(464千円)、店内備品類(レジスター等)(161千円)、②冷蔵ショーケース(1,075千円)	1,701,314	1,154,000	アンテナショップにおける農産物や加工品の販売に留まらず、中野市からはそば打ちや味噌作りのため出向き、藤沢市からは田植えなどの農業体験に親子連れで参加するなど、都市と農村の交流に積極的に取り組んでいる。また、古民家を借りて食に関する勉強会等を行うなど、様々な視点で消費者と農家を繋いでいることは高く評価できる。
11	特色ある観光地づくり	ソフト	NPO法人アートミュージアム・まち(中野市)	三館同時開催「陣屋のまちの文化力」	6月のばらまつり期間中に「陣屋・県庁記念館」で市が所蔵する美術工芸品の展示会に合わせ、中野市出身の日本画家菊池契月の作品や一茶直筆の短冊等を展示会を近隣で開催することにより、中野の歴史文化に触れる機会を創出し、中野市の新たな魅力を発信した。 ①ポスター・チラシ印刷代(359千円)、展示パネル材料費(184千円)	544,274	408,000	中野市一本木公園で開催される「バラまつり」期間中に合わせ、市街地への観光客の誘導を図った。また、展示箇所を3箇所とするなど、中心市街地活性化の契機となるよう取組んだ。
12	保健、医療、福祉の充実	ソフト	おはなし♡びっくりに(おとこぐみ)(中野市)	「お父さんの読み聞かせ」講演会と実践発表	父親の子育て参加の具体的な取り組みの一つとして、お父さんによる読み聞かせがある。読み聞かせは子どもにとっても父親にとっても大変有意義なものであることから、父親による読み聞かせに関する具体的な実践の方法や読み聞かせしやすい本を紹介し、お父さんによる読み聞かせの浸透を図った。 ①講師謝礼(206千円)、印刷製本(358千円)、絵本(61千円)	678,158	528,000	「父親による絵本の読み聞かせ」という県内でも珍しい先進的な取組みを10年以上行っているが、より質の高い読み聞かせを目指しており、読み聞かせ会における父親の参加者も増えている。活動が評価され、県教委開催の「心の教育フォーラム」で発表するなど、認知度が高まってきている。
13	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト・ハード	中野市豊田特産振興会(中野市)	故郷ふるさとでおもてなし、農家民宿「なんだ屋」開業事業	唱歌「ふるさと」の情景が残る自然豊かな中野市豊田地区において、都市住民が農業体験等しながら滞在できる農家民宿を開設し、交流人口を増やし、その先の移住等につなげていく拠点を整備した。 ①備品購入費(131千円)、建築確認申請等(343千円) ②住宅改修費(638千円)、厨房改修費(190千円)	1,302,767	790,000	ハードの整備と建築確認手続き等に時間を要し、当初計画していた宿泊受入まで至らなかったが、開業に必要な手続きは整った。地域おこし協力隊と連携し、地域食を提供する農家レストランとしての基盤も整備した。

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
14	特色ある観光地づくり	ソフト	信越9市町村広域観光連携会議(飯山市)	信越9市町村広域観光連携事業	信越自然郷の3つの価値として位置づけられた「食」「アウトドア」「リラクゼーション」を活用し、「信越自然郷」「北陸新幹線飯山駅」をPRした。 ①滞在プログラム・コンテンツの企画PR等(4,352千円)、商談会への参加(2,442千円)、プロモーション映像製作等(6,852千円)、旅行雑誌等宣伝費(6,897千円)、銀座NAGANO PR費(735千円)	29,596,451	10,000,000	県と北信6市町村プラス3市町が協働し、「食」「アウトドア」「リラクゼーション」をキーワードに北陸新幹線飯山駅開業後の広域観光対策事業を行った。信越自然郷エリア内の住民が銀座NAGANOや信越自然郷うまいもの市を活用して自ら情報発信し、冬期の飯山駅利用者の増加に貢献している。今後も9市町村、地域住民、県等と連携した事業展開を期待する。
15	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	トガリン村(飯山市)	飯山そばの里づくりプロジェクト	近年飯山市内で、そばを始めとした地元農産物を加工した様々な商品が開発されてきていることから、商品と提供者を募り「トガリン村収穫祭」としてイベントを開催した。 ①新聞広告(410千円)、イベント設備等(87千円) ②会場整備費(96千円)	594,656	339,000	飯山市内の6次産業事業者を集め、商品発表の場としての収穫祭を実施したところ、参加グループも増え、地域食材を個性豊かにPRできた。今後の産業振興につながるよう期待したい。
16	安全・安心な地域づくり	ソフト	飯山倶楽部(飯山市)	災害時避難収容施設で災害体験とワークショップ(研修会)の開催	防災、災害、避難所生活について学ぶため、防災キャンプを企画、勉強会を兼ねてワークショップを開催し、夏休み期間中に市内の親子を対象として防災キャンプを実施した。また、ワークショップや防災キャンプで学んだことをリーフレットとしてまとめ、各地区や育成会等に配布した。 ①ワークショップ講師謝金等(137千円)、防災キャンプ開催経費(講師謝金等(76千円)、チラシ印刷等(39千円))、啓発リーフレット印刷費(200千円)	453,459	353,000	災害時の対応を「楽しく」学ぶことで子ども達に興味を持たせることができた。また、世代や地域、立場を超えたグループ体制により実践したことから、災害時に必要な体制を具体的に把握でき、交流も広がった。作成した防災キャンプリーフレットは飯山市内小学校のほか公民館、育成会等に配布され、住民の防災意識の向上につながった。
17	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	北信州ハーフマラソン実行委員会(飯山市)	北陸新幹線飯山駅開業記念 信越自然郷第3回北信州ハーフマラソン大会	北陸新幹線飯山駅開業を記念する地域住民参加型の「マラソン大会」を開催し、地域の連携を深め、信越自然郷のPRを図った。 ①会場設営関係費(1,721千円)、報償関係費(3,514千円)、レース関係費(5,377千円)、広告宣伝費(2,621千円)、参加案内等管理費(2,344千円)	15,579,307	2,500,000	北陸新幹線飯山駅開業記念イベントとして野沢温泉村・木島平村・飯山市をコースとした第3回北信州ハーフマラソンを実施したところ、前回は上回る申込みがあり、フィニッシュエリア隣で同時に開催した「信越自然郷うまいもの市」も多くの来場者で賑わう等、北陸新幹線飯山駅を大いにPRすることが出来た。地域住民もボランティア等として参加しており、今後の更なる盛況が期待される。
18	地域協働の推進	ソフト・ハード	いいやま広小路会議(飯山市)	広小路界限創造プラン実践事業	新幹線で訪れる観光客を中心に市街地に誘導するまちなか観光や回遊性のあるまちづくりを推進するため、専門家の協力を得て地域の拠点となる教会を復活させ、地域全体を芸術という切り口で活性化に取り組んだ。 ①講師謝金(1,000千円)、②CORQ敷設(3,001千円)	4,033,603	2,338,000	フランス・ノルマンディの礼拝堂再生プロジェクト等で著名な画家・田窪恭治氏を招き、飯山市広小路及び仲町の地域住民、行政が協働し、広小路界限の新たな拠点として飯山復活教会周辺の整備を行った。観光客を市街地へ誘導するまちなか観光の拠点となるよう、今後のまちづくりに期待したい。
19	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト・ハード	温井むらづくり委員会(飯山市)	続 温井里山活性化事業	農産物直売所を建替えたところ、森の家への観光客を中心に固定客が増加し、コーヒーや軽食の提供を望む声が寄せられたことから、温井地区にある空き寺を改修し、地元でとれた野菜を使った軽食を提供できる集落カフェを開設した。 ①お堂備品経費(680千円)、講師謝金(15千円) ②厨房改修経費(594千円)	1,343,029	917,000	空き寺を「集落カフェ」として改修し、なべくら森の家と連携してヨガなどのイベントを開催、地元野菜を中心としたメニューを提供した。ブナ林を背にしたお寺は癒しの場として好評であり、集落内外の人々との交流拠点となり、集落の活性化が図られた。
20	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト・ハード	北信ジビエ振興組合(飯山市)	野生鳥獣肉加工・流通施設整備事業	捕獲した野生鳥獣を加工し飲食店に提供するため、古民家を改修し加工施設を整備した。また、ハンターの捕獲意欲の向上や担い手の確保を目指し、講習会を開催した。 ①備品購入等(349千円) ②解体施設整備費用(11,895千円)	11,245,342	3,901,000	捕獲した有害鳥獣をジビエ食として提供するため、北信地域初となる加工施設を整備した。合わせて、ハンターの育成、ジビエ料理提供店の確保も進めており、今後、地域特有の食材として観光資源となるよう体制を整備し、更なるジビエ食の普及に期待する。

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
21	特色ある観光地づくり	ソフト	一般社団法人信州いいやま観光局(飯山市)	信越自然郷アクティビティセンターを拠点とした新たな滞在型観光の創生事業	飯山駅開業にあわせ開所した「信越自然郷アクティビティセンター」において、飯山駅周辺及びエリア内のサイクルルートの設定とツアーを実施、あわせてアクティビティに関する情報発信やイベント、講習会を開催した。 ①WEBサイト構築(1,257千円)、プロモーション映像制作(1,490千円)、パンフレット制作(693千円)、サイクリングイベント事業費(130千円)、安全講習会事業(249千円)、NAGANOモビリティ事業(338千円)	4,158,419	3,280,000	自然を楽しみながら移動行程そのものを楽しむ新しい旅行スタイル「モビリティ」を提案、イベントやツアーを開催した。信越自然郷の自然が持つ資源を活かしアウトドアやアクティビティに特化し、かつ行政の枠組みを超えて様々な団体と連携した取組みは全国でも珍しく、北陸新幹線飯山駅開業を契機に特色ある観光地づくりに貢献している。
22	教育、文化の振興	ソフト・ハード	信越自然郷斑尾高原芸術祭実行委員会(飯山市)	信越自然郷 斑尾高原芸術祭	山と自然と人々の暮らし、文化・食、既存の建物や自然を生かし、既存の風景に溶け込むアートを展開し、地域住民と協働で地域への愛着と誇りを持つことを目的に約20年間、斑尾の地で芸術祭を開催してきた。27年度は飯山駅開業年であることから、参加アーティストを増やし、信越9市町村に広く参加を呼びかけ地域を越えた連携を芸術という分野で図った。 ①芸術祭PR経費(600千円)、招待作家経費(750千円) ②トラス一式(550千円)	2,555,825	1,491,000	斑尾地区で20年間続けてきた芸術祭に初めて屋外展示を加えて開催したことにより来場者が斑尾高原内を歩いてめぐり、飲食店の出店やトレッキングへの誘客につながった。
23	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	信越自然郷・五高原ロングライド実行委員会(飯山市)	信越自然郷・五高原ロングライド2015	北陸新幹線飯山駅開業効果を利用し、信越自然郷を巡るサイクリングイベントを開催、信越自然郷内にある観光資源の掘り起こしを図った。 ①コース設営費(420千円)、参加者記念品等(703千円)、PR経費(2,270千円)	4,516,499	1,101,000	北陸新幹線飯山駅開業を利用し「信越自然郷」を巡るサイクリングイベントを開催したところ、地元住民がボランティアとして参加し休憩所で地元食材を提供する等、地元と一体となった有意義なイベントとなったが、他のロングライド大会が同日に3つ重なり、参加者が前年より減少してしまった。参加者の評価は比較的高いものの昨年度より満足度が下がっており、今後は、日程調整を図ると共に、満足度を高める工夫やインバウンド受入体制の整備等、一層の取組を期待する。
24	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	志賀高原観光協会(山ノ内町)	第2期 志賀高原ユネスコエコパーク 蓮池外来種駆除事業	外来植物に覆いつくされた蓮池を、26年度に専門業者による深部駆除を行い一定の成果を得たが、継続的に実施するため地域住民が主体となって独自に水草刈り器を製作し、住民参加の駆除作業として地域に根付く取組みとした。 ①深部草刈機材制作費(302千円)、廃棄物撤去費用(291千円) ②深部の駆除用ボート(257千円)	978,876	624,000	前年に深部駆除機械による刈り取りを行ったが費用が多額であることから刈り取り器具を考案し、手作業で作業を行い前年度と同等の駆除効果を得られた。地元小学生がユネスコスクールにおける環境教育の一環として参加したほか、あらゆる団体や業者が協力し合って知恵を出し合い工夫し外来種駆除に成果を出した。この活動をきっかけに蓮池のみならず様々な地域で環境保全活動が始まった。
25	特色ある観光地づくり	ソフト	山ノ内町エコツアー実行委員会(山ノ内町)	志賀高原ロングライド	山ノ内町全域がユネスコエコパーク移行地域が新たに設定されたことを契機に、志賀高原の更なる魅力を発信する取り組みとしてサイクリングイベントを開催した。飯山駅開業を記念し、信越自然郷に関するPRを積極的に行った。 ①企画運営費(1,001千円)、調査・準備経費(175千円)、広告費(640千円)、告知物制作費(591千円)、エントリー経費(461千円)、大会運営費(5,169千円)	8,422,045	1,422,000	志賀高原から野沢温泉村までの国立公園内の美しい自然を楽しめるサイクリングイベントを開催し、志賀高原ユネスコエコパークや新幹線飯山駅開業をPRすることができた。また、閑散期のこの時期に参加者等多くの宿泊者があった。他のロングライド大会が同日に3つ重なったため参加者が当初見込みより少なかったが、参加者の評価は高かった。今後は日程調整を図ると共に、更に信越自然郷や志賀高原ユネスコエコパークのPRに寄与することを期待する。
26	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	奥志賀高原常会(山ノ内町)	奥志賀高原リンドウの丘整備事業	奥志賀スキー場内に整備した散策コース「リンドウの丘」から奥志賀溪谷へのトレッキングコースを整備するとともに、フォト・スケッチコンテストを実施し、山岳高原リゾートとしての奥志賀高原のPRを図った。また、奥志賀高原を源流とする夜間瀬かながい排水路の管理の歴史についての勉強会を地元中学生を対象に開催した。 ①写真・イラストコンテスト経費(407千円)、チラシ作成費(235千円)、勉強会ガイド料(90千円) ②案内板一式(436千円)	1,170,492	840,000	奥志賀溪谷を流れる雑魚川は周辺の飲料水・農業用水を賄っており、古くから地元観光関係者と漁協関係者等が一体となって環境保全に尽力している。地元中学生を対象にその歴史と現状を伝えたことは環境意識を高め、今後にも続く保全活動の一助となることを見込める。また、散策路も奥志賀常会が中心となり地域住民が丁寧な管理をしているが、継続して整備してきたことにより観光客の入込が増加してきている。

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
27	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	志賀高原から始まる市川海老蔵 いのちを守る森づくり=ABMORI実行委員会(山ノ内町)	「後世に残そう森・水・いのち」志賀高原森林再生事業	県と山ノ内町が中心となり、志賀高原の閉鎖スキー場の森林再生を目的とした植樹活動「いのちを守る森づくり」を26年度から実施している。27年度は単なる植樹イベントに終らせることなく、小学校の授業の一環として、志賀高原から拾ってきたどんぐりから苗木を育てる活動のほか、高校生によるモニタリング調査を始めた。 ①苗及び種子の採取及び育苗経費(236千円)、植樹経費(4,394千円)、②整地(5,184千円)	9,838,853	3,611,000	自生する樹種を選定するほか採取したどんぐりによる育苗活動も始め、より効果的な植樹を行おうとしている。植樹にまつわるあらゆる段階で地元の小中学生、高校生とともに活動しており、環境保全の意識を高める契機としている。今後、継続してモニタリング調査を行い、日本生態学会へ発表することを目標としているが、子ども達の大きな励みとなることを期待する。
28	地域協働の推進	ソフト	須賀川区ふるさと創生委員会(山ノ内町)	須賀川区魅力発信事業	須賀川区は25年度県の「集落再熱実施モデル地区支援事業」のモデル地区に指定され、集落活性化計画を策定し実践している。27年度は掘り起こしてきた地域資源を外に情報発信するため、地域限定の「ご当地じゃらん」を作成、広く配布した。 ①GAP調査経費(1,080千円)、パンフレット作成費(1,814千円)、印刷費(173千円)	3,068,122	2,297,000	住民が中心となって調査項目を検討して行ったGAP調査の結果を踏まえ、須賀川区に限定した「ご当地じゃらん」を作成、最も関心の高かった童王展望テラス「SORA terrace」を表紙としたところ観光客の増加につながった。25年度に選定された集落再熱実施モデル地区の取組みから継続して集落の活性化に向けた様々な取組みがなされており、更なる活性化に期待したい。
29	安全・安心な地域づくり	ソフト	湯田中区(山ノ内町)	湯田中区支え合い(防災)マップ作成事業	災害発生時には最初の避難ルールを策定することが急務との認識から、区の役員が中心となり住民が協力し合い、危険箇所の確認や要支援者を把握し、分かりやすい防災・支え合いマップを作成した。 ①マップ作成経費(788千円)、周知チラシ作成経費(20千円)	808,900	645,000	山ノ内町最大の行政区である湯田中区が地域防災力向上のため独自の防災マップを作成した。高齢者や、転入者にも分かりやすい内容とするため、地域住民が何度も協議を重ね、より具体的な避難ルールづくりを進めたことにより防災意識が高まると同時に、住民同士のコミュニケーションが深まり地域力が向上した。
30	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	なちゆるるスイーツ(木島平村)	玄米粉「米っふる」で身体も村も元気にしよう！プロジェクト！	木島平をアピールするため、特産品である「米」をモチーフとした商品(玄米粉ワッフル、玄米粉ゴーフレットなど)を開発、商品化した。地域活動団体や地元高校生など多くの人達と連携し味の改良を重ね、村の各種イベントにおいて販売した。 ①業務用調理器具(210千円)、発電機等(72千円)、視察経費(71千円)、	473,270	301,000	「米どころ」としての木島平村の特産品スイーツとして米粉ワッフル等を新たに開発した。村内ではイベント出店などで徐々に認知度が高まってきているので、村外でも需要が高まるよう、更なるPRに期待する。
31	保健、医療、福祉の充実	ハード	NPO法人ぱーむぼいず(木島平村)	「困難を有する若者が就労につながることを支援する場所づくり」	引きこもりや登校拒否等で社会的自立に困難を有する子どもや若者、特に高校卒業以降の若者が就労に向けて力をつける場として「ほっぷ・すてっぷJOB college」を27年4月からスタートした。その自立支援に当たって、自炊訓練をメニューとして取り入れるため、簡易キッチンを整備した。 ②キッチン水道整備工事一式(960千円)	960,000	576,000	地域の若者を対象とした就労準備支援施設を立上げ、生活自立を目標に自炊練習等を行った。小規模施設であるがゆえにきめ細かくニーズに応じた支援を行うことができ、地域や関係機関とも連携し就労に結び付けている。
32	特色ある観光地づくり	ハード	内山区地区づくり景観づくり委員会(木島平村)	龍興寺清水周辺魅力アップ事業	龍興寺清水は古くから内山区に伝わる名水で、平成20年度には平成の名水百選に選ばれ村を代表する観光地となっている。生活用水としても区民に親しまれ、区全体でこの清水の環境保全に努めているため、村を代表する観光地としての魅力アップを図り駐車場等の環境整備を行った。 ②看板設置(45千円)、流水化工事(774千円)、標柱設置(120千円)	940,260	626,000	駐車場の流水化工事に当たっては、地区の住民が協働して作業を行い、区民が一体となって管理しているため連帯感が深まり、村の観光資源としての魅力アップにつながっている。

整理番号	主事業区分名称	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	確定事業費(単位:円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
33	森林づくりと林業の振興	ソフト	NPO法人森のライフスタイル研究所(伊那市)	木島平村カヤの平高原におけるブナの森づくり	カヤの平高原牧場は夏の間の牛の放牧地として栄えてきたが、現在では牧畜農家の減少により、未利用部分が増加しているため、未利用の牧場を昔のブナ林に復元する植樹活動を行った。参加者を都市部で募ることにより、都市住民と地元住民の交流を図りつつ森づくりを推進した。 ①バス借料(666千円)、高速代(90千円)、講師謝金(159千円)、募集チラシ印刷費(162千円)	1,207,560	808,000	カヤの平高原のブナ林の林縁部から苗木を掘り取り未利用牧草地へ移植するという、従来の植樹スタイルではない移植方法により森林の再生を図っている。都市部で参加者を募集し、宿泊を伴う行程で開催するため、都市と農村の交流も深まっている。
34	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト・ハード	内山酒米研究会(木島平村)	雪国の個性を活かした雪中貯蔵酒づくり事業	木島平村内山集落では、集落で栽培した酒米と、龍興寺清水の水で醸造した酒「内山乃雫」を3ヶ月間雪室で貯蔵し付加価値を付けて販売する取組みを4年前から行っており、販売とともに完売となるなど好評を博している。そこで安定した品質を確保するため、雪の長期保存が可能な簡易雪室施設を設置した。 ①試飲会及びフォーラム開催経費(82千円)、酒米技術視察経費(50千円)、PR経費(42千円)、雪室実証実験経費(212千円) ②雪室被覆シート(167千円)	422,677 (当初793,568)	315,000 (当初612,000)	雪中貯蔵の技術改良を図り、過去最多の日本酒の貯蔵ができたが、当初予定していたフォーラム(試飲会)と貯蔵酒の在庫の調整がつかず中止としたほか、雪室実証実験の一部及び雪中貯蔵種パンフレットの作成については村内のむらづくり団体と連携し別途行うこととしたため中止となった。今後は村づくり団体と連携し、効果的なPRとなるよう期待したい。
35	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	一般社団法人野沢温泉観光協会(野沢温泉村)	野沢温泉村を起点とした多言語地域交通案内事業	外国人旅行者から、野沢温泉から他地域への公共交通機関を使った移手段の問い合わせが多く、対応が追いつかない現状であり、北陸新幹線飯山駅の開業を契機に更に外国人旅行者の増加が見込まれるため、移手段に特化した日本語・英語併記のアクセスガイドパンフレットを作成し、旅行者の満足度アップと周辺周遊観光の増進を目指した。 ①パンフレット作成経費(740千円)、ウェブサイト作成経費(145千円)	885,600	664,000	外国人が使いやすい仕様のアクセスガイドパンフレットを作成したが、当初12月末までに完了する予定であったところ原稿の作成が遅れたため2度にわたり期間を延長し、結局3月末に発行となったため、観光客の入り込みのピークには間に合わなかった。
36	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	一般社団法人野沢温泉観光協会(野沢温泉村)	北陸新幹線飯山駅開業に伴うグリーンシーズンのメディアトリップ事業	北陸新幹線飯山駅開業を契機に、グリーンシーズンにおける野沢温泉村への誘客を図るため、開業により身近になる信越自然郷エリアの魅力を体感してもらい、自社の紙面や電波等で積極的に情報発信してもらうため、北陸、首都圏のメディア関係者を招きツアーを実施した。 ①交通費(248千円)、宿泊費(209千円)、マイクロバス代(20千円)	506,040	312,000	北陸新幹線飯山駅が開業し、首都圏のほかこれまで交流がなかった北陸エリアからもメディア関係者を招き、情報を発信してもらうことができた。
37	地域協働の推進		信越秋山郷会(栄村)	秘境秋山郷素朴な観光おもてなし事業	北陸新幹線飯山駅開業を見据え、津南町、栄村両地域の秋山郷住民が協働し、昔ながらの生活習慣や豊かな自然が残る秋山郷の魅力を旅行者が自ら「秘境」を体験できるためのおもてなしや新たな観光メニューの掘起しを行い、昔からある素朴な観光の振興を目指し、フォトコンテストの実施、料理講習会の開催、観光探訪パンフレットの作成等を行った。 ①フォトコンテスト開催経費(393千円)、料理講習会(157千円)、観光探訪パンフレット作成経費(1,798千円)、クリアファイル作成経費(691千円)	3,040,415	2,232,000	苗場山麓ジオパーク推進室(津南町)とも連携しジオサイトのフォトコンテストを行ったため、苗場山麓ジオパークの宣伝効果を高めることができた。また、昨年度実施した「食のコンテスト」入賞作品を活用し「名物料理」として仕掛けるための料理講習会を行い、一部の宿泊施設から提供を始めた。今後も、行政と住民が県境を越え一体となって取組み、秋山郷の魅力を発信し更なる活性化に期待する。